



汐見の和

横浜市立汐見台小学校
令和8年5月25日
学校だより 6月号

【学校教育目標】人やものに豊かにかわり、ともに未来を創る子
電話 045-761-1561 FAX 045-754-6409
ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shiomidai/>



天翔ける 紙飛行機 ～折り目と習慣～

校長 高村 彰一

紙飛行機を折った後、元に戻そうとしても、一度付いた折り目は簡単には戻りません。

しかし、その紙を折り目に従ってもう一度折り直すと、簡単に紙飛行機を作ることができます。一方、紙飛行機の折り目の付いた紙で、鶴や兜など、別のものを折ろうとすると、紙飛行機の折り目があることによって、作ろうとするものを作ることが難しいかもしれません。



さて、折り目は、見方によっては、「習慣」のようなものだと考えることができます。

習慣となったものは、意識をしなくても容易に実行することができます。そして、家庭や学校において、子どもたちが身に付けていく習慣は、やがて生活を左右するような大きな存在になります。

当たり前の話かもしれませんが、何を習慣化するのか、その人の人生において、とても重要な意味をもつこととなります。

中国の古典『言志四録』に

一の字(いちのじ)、積の字(せきのじ)、甚だ畏る可し(はなはだおそるべし)

という言葉があります。

意味は、「一と積という字は、おおいに恐れ慎むべきである。善悪の兆しは最初の一念にあり、善悪はその一念が積み重なった後に定着するものだ。」となります。

もう少し、掘り下げてみると、「人生はつまるところ、一の一字であると言ってもいいし、積の字であると言ってもいい。小さなことの積み重ねが、それぞれが目指す大きな成果を上げることができる唯一の道である。」と読み取れます。

学校の教育には、子どもたちが初めて学ぶ「一」が多くあり、それを積み重ねる「積」もあります。

教育は、子どもたちが、将来、縦横無尽に大空を駆け回ることができることを願い、日々の学習や生活の中で、子どもの真新しい紙に折り目を付けていく取組の積み重ねです。

子どもたちの夢の実現のためにも、さまざまな物事との出会いを楽しみ、それを積み重ねることの大切さに気づき、時には間違いに気づく感性を磨き、粘り強く取り組む姿勢を身に付けるように、学習を重ねています。時には、子どもたちに付けていった「折り目」を修正しておくことも、教育の大切な役割だと考えております。

新しい学年になり2か月近くが過ぎました。子どもたちは、新たな環境にも慣れてきています。そして、希望に満ち溢れている今だからこそ、自ら「折り目」を付けていこうという高い意欲をもっています。その「折り目」をより確かなものにできるよう、保護者、地域の皆様と共に、教職員一同、教育活動に取り組んで参ります。